

日南市教育研究所

研究主題と副題	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 1
主題設定の理由	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 1
研究目標	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 2
研究仮説	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 2
研究構想	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 2
研究組織	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 3
研究内容	
1 本研究における基本的な考え方	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 3
（1）研究主題における目指す児童生徒像	
（2）「産学官連携」によるキャリア教育とは	
2 体験型アクティビティの整理及び実践	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 3
（1）体験型アクティビティの考え方	
（2）体験型アクティビティの整理	
（3）授業研究会の実施	
（4）アンケートの実施	
（5）実践事例集の作成	
3 地域の人材や企業等との連携	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 8
（1）グッジョブフェスタ in にちなん	
（2）人材バンクを活用した授業	
研究の成果	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 10
研究の課題	・ ・ ・ ・ 2 - 1 - 10
引用・参考文献	
研究同人	

研究主題と副題

将来に夢をもち、新時代を生き抜く「4つの学ぶ力」を身に付けた日南っ子の育成
産学官連携によるキャリア教育の推進を通して（3年次）

主題設定の理由

社会の動向から

今日、産業界・経済界の構造的変化、雇用形態の多様化・流動化を背景として、児童生徒の進路を取り巻く環境は大きく変化している。さらに、児童生徒の勤労観・職業観の希薄化や社会人・職業人としての基礎的・基本的な資質を培う上での課題等は、近年憂慮すべき問題である。

このような状況を解決していくためには、児童生徒一人一人が「生きる力」を身に付け、適切な勤労・職業についての価値観を自ら形成・確立し、将来直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を高めることが重要であり、これまで以上にキャリア教育を推進することが望まれる。

本県においては、第二次宮崎県教育振興基本計画（平成23年）を策定し、その中でもキャリア教育の推進を重点施策と位置付けている。また、日南市重点戦略プラン「創客創人」（平成27年）のビジョン4「次世代育成戦略」では、重点施策として「4つの学ぶ力を身に付ける日南教育の推進」「郷土に愛着と誇りをもつ児童生徒の育成」「児童生徒が自分らしい生き方を選択するためのキャリア教育の充実」を掲げている。

昨年度までの研究から

日南市は、「新時代を生き抜く『4つの学ぶ力』を育てる日南教育」をスローガンとして、「他者から学ぶ力」「自ら学ぶ力」「自然から学ぶ力」「社会から学ぶ力」を身に付け、豊かな心と確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に取り組んでいる。その具現化のための方策として、一貫性・連続性のある教育システムを構築し、9年間を見通した指導を進めている。本年度は、研究を進めて3年目になる。

1年次では、キャリア教育を推進するために、経済産業省が提唱する「社会人基礎力」に着目し、大学などの専門教育機関、地域の企業や事業所、学校、行政による産学官連携を核に共同研究を進め、多面的に実践を行った。まず、宮崎大学が研究・開発した「体験型アクティビティ」を授業に取り入れ、「4つの学ぶ力」の育成につなげた。また、地域の企業等と連携した取組「グッジョブフェスタ in にちなん」で職業体験や職業講話を行ったり、宮崎大学訪問研修を行ったりしたことで、勤労観・職業観の育成につなげることができた。

2年次では、「4つの学ぶ力」とキャリア教育で育む基礎的・汎用的能力との関連及び体験型アクティビティの目的や展開を整理し、児童生徒が体験型アクティビティで学んだことを他の授業や学校生活に活かせるようにした。また、職場見学、職場体験、インターンシップなどの体験学習の目的や在り方を検討し、体験学習の内容を系統的に整理した。

本年度の研究を進めるに当たって

そこで本年度は、これまでの研究内容を日南市の教職員が日常の授業で活かすことができるようにするために、体験型アクティビティにおいて身に付けることができる力を整理し、特別活動に意図的に位置付けて、授業実践に取り組むことにした。また、地域の企業等との連携を見直し、キャリア教育の視点から新たに人材バンクの作成に取り組むことにした。

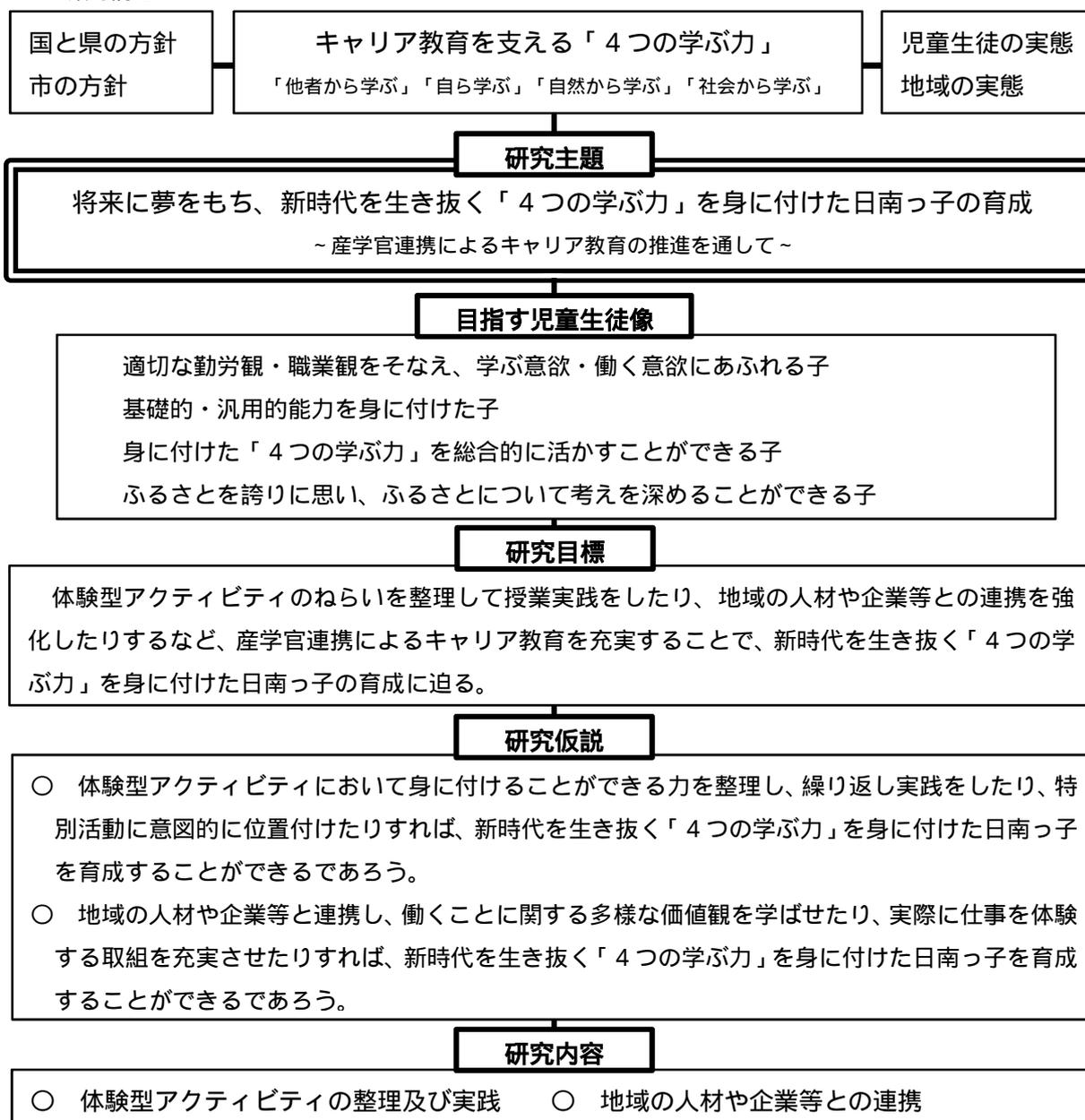
研究目標

- 体験型アクティビティのねらいを整理して授業実践をしたり、地域の人材や企業等との連携を強化したりするなど、産学官連携によるキャリア教育を充実することで、新時代を生き抜く「4つの学ぶ力」を身に付けた日南っ子の育成に迫る。

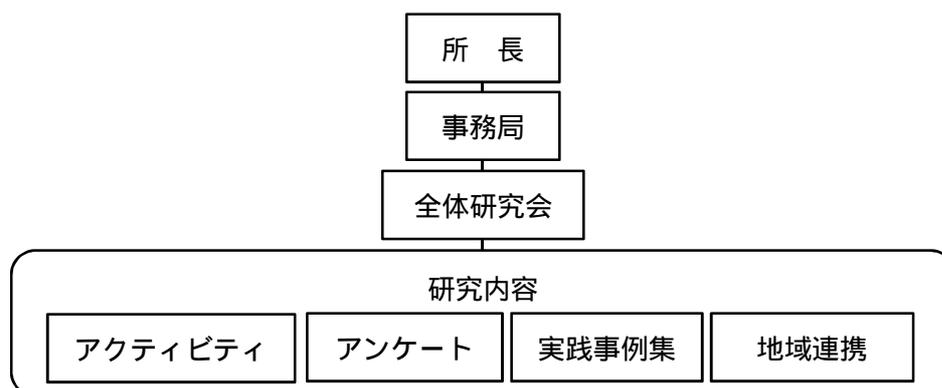
研究仮説

- 体験型アクティビティにおいて身に付けることができる力を整理し、繰り返し実践をしたり、特別活動に意図的に位置付けたりすれば、新時代を生き抜く「4つの学ぶ力」を身に付けた日南っ子を育成することができるであろう。
- 地域の人材や企業等と連携し、働くことに関する多様な価値観を学ばせたり、実際に仕事を体験する取組を充実させたりすれば、新時代を生き抜く「4つの学ぶ力」を身に付けた日南っ子を育成することができるであろう。

研究構想



研究組織



研究内容

1 本研究における基本的な考え方

(1) 研究主題における目指す児童生徒像

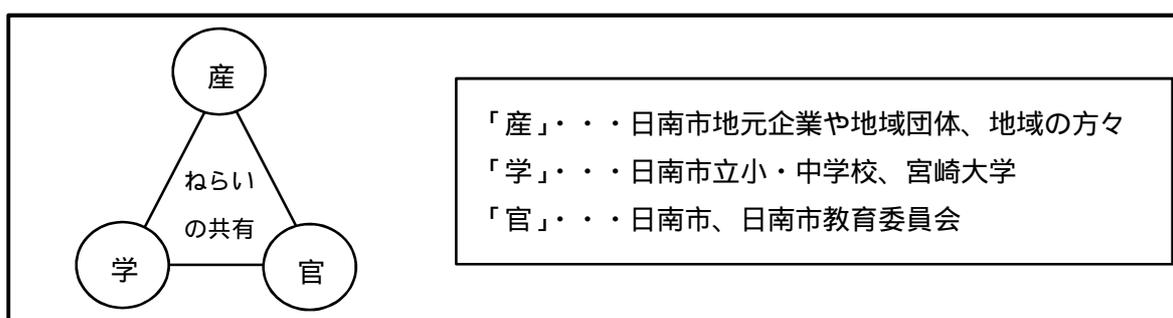
目指す児童生徒像を、以下のように設定した。

将来に夢をもち、新時代を生き抜く「4つの学ぶ力」を身に付けた日南っ子

- 適切な勤労観・職業観をそなえ、学ぶ意欲・働く意欲にあふれる子
- 基礎的・汎用的能力を身に付けた子
- 身に付けた「4つの学ぶ力」を総合的に活かすことができる子
- ふるさとを誇りに思い、ふるさとについて考えを深めることができる子

(2) 「産学官連携」によるキャリア教育とは

本研究所は「産学官連携」によって研究を推進していくことで主題に迫る。産学官連携については【図1】のように捉えた。



【図1：産学官連携】

2 体験型アクティビティの整理及び実践

(1) 体験型アクティビティの考え方

体験型アクティビティとは、ねらいとする力を高めるために、1単位時間の中で繰り返し行う体験及び活動である。体験型アクティビティを実施することで、ねらいとする力の向上とともに、主体的な態度の育成や共感的な人間関係の形成につながり、学級経営においても有効であることがこれまでの研究で明らかになっている。本年度は体験型アクティビティを特別活動の授業にも取り入れて、授業実践を重ねた。

(2) 体験型アクティビティの整理

指導者が実践するに当たり、どのアクティビティに取り組めばよいか分かりやすくするために、主な対象学年と身に付けることができる力を【表1】のように整理した。対象学年を明記しているが、学習指導過程を工夫することにより全学年で実践することが可能である。また、基礎的・汎用的能力を身に付けさせることを意図した活動であるが、指導者の発問、声かけによっては、主体的な態度等、様々な力を高めることができる。なお、中学校においては、どの学年でも実施可能である。

対象学年			アクティビティ名	身に付けることができる力
低	中	高		
			積み木タワー	協調・協働する力
			人間コピー（日南キューブ版）	発信する力・傾聴する力
			トランプで時計をつくろう	役割を把握し、実行する力
			紙タワーをつくろう 紙コップタワーをつくろう	課題を発見する力
			正方形をつくろう	問題を解決する力
			卵を守れ！（エッグシェルターをつくろう）	課題を発見し分析、解決する力

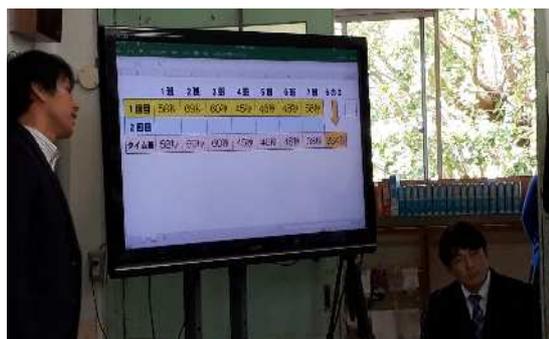
【表1：体験型アクティビティ一覧表】

(3) 授業研究会の実施

研究内容の検証及び普及のために、授業研究会を実施した。研究授業は、第6学年の特別活動の授業として行った。授業は、修学旅行のグループ活動を成功させたいという学級の思いのもとに、事前の活動でグループの活動状況の課題を確認し、その課題解決に向けて、体験型アクティビティの1つ『トランプで時計をつくろう』の活動を行った。

授業の導入では、授業の目的・手順・きまりについて指導者が説明し、1回練習を行った。活動の流れを確認した後、本時のめあてを設定した。

展開では、合計2回の活動を行った。まず、1回目のタイムを基準にし、「どうすればもっと早くなるか」という柱を立て、グループで話し合いを行った。大型テレビを活用し、学級全体の合計タイムを示し【写真1】学級全体で力を合わせるという意欲の向上を図った。



【写真1：合計タイムの提示】

2回目の活動を終えた後、さらに話し合いを行った。その際、「他の班に聞いてもよい」と促すことで、タイムが良かった班に聞きに行く姿【写真2】も見られた。また、児童の意見を【表2】のように「役割の工夫」「準備の工夫」「手順の工夫」の3つに整理することで、児童が取り組みやすいようにし、3回目の活動を行った。3回目の活動では、トランプを配りやすくするために、マークを机に記したり、立って取り組んだりする姿【写真3】が見られた。

役割の工夫	準備の工夫	手順の工夫
手伝う人 配る人 並べる人	マークの確認 1つの山にする時の置き方 ・取りやすいように ・並べやすいように	先に終わったら手伝う マークに合わせて配る

【表2：児童の工夫】



【写真2：意見を聞きに行く児童の様子】



【写真3：グループ活動の様子】

終末では、ワークシートを、「グループで話し合いを工夫した感想」「工夫した役割分担の方法」「手順の工夫」の3つの視点で書くようにすることで、本時の振り返りを行った。児童の記述は、以下のようなものが見られた。

- 活動をしていく中で自分たちが教えたアイデアで、他のグループがよい結果を出したときには、同じようにうれしかったです。
- 一人一人が分担し合うことで、思っていた以上の力を出せたように感じました。
- 今日出せた協力のよさが修学旅行でも生かすことができれば、楽しい活動ができるだろうと思いました。

どの記述にも、グループの役割分担やアイデアの生かし方について記述してあった。このように、児童が「合計タイム」や「他の班との差」ではなく「役割分担の良さ」に注目したのは、【表2】のように、話し合いの論点を明確にして活動に取り組ませたことが有効であったからと考えられる。本時の授業を受けて事後の活動として行われた修学旅行では、役割を意識した言動やグループ間での助け合いなどの姿が見られた。また、事後研究会は、参加者が実際に体験型アクティビティに取り組む「参加体験型協議」を行った。授業の質疑・意見については、付箋に記入してもらい、研究所員がグルーピングして答えた。参加者からは以下のような質疑・意見がでた。

- 子どもの努力が認められることと周囲が支える関係が良かった。
- 核となる行事に関連付けるのはキャリア教育の視点としてとても良い。
- 他の体験型アクティビティのねらいとの違いは何か。
- 授業の発想はどこからきたのか。
- 年間指導計画にはどのように位置付ければよいか。

(4) アンケートの実施

特別活動としての体験型アクティビティの有用性や、体験型アクティビティに対する期待度を調べるために、アンケート調査を実施した。

ア 調査概要

(ア) 調査対象

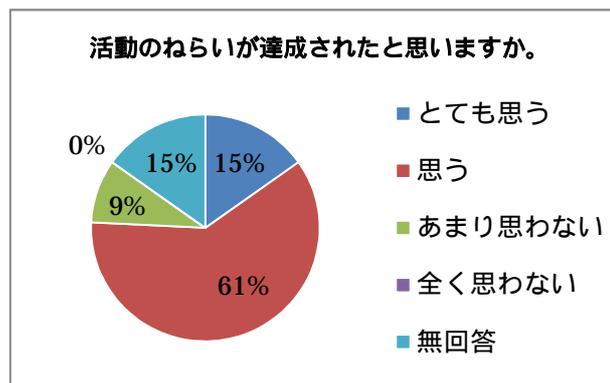
日南市内の各小・中学校で行われた体験型アクティビティを取り入れた授業の参観者33名

(イ) 調査方法

授業参観前にアンケート用紙を配付し、記入後に回収・分析

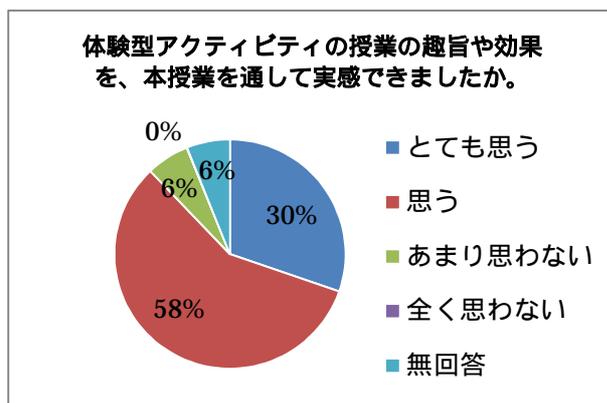
イ 集計結果及び考察

「活動のねらいが達成されたと思いますか。」【図2】の質問に対して「とても思う」「思う」と答えた割合は76%であった。体験型アクティビティの活動のねらいは、特別活動の評価規準に即して設定されているため、授業を参観した教師の多くが体験型アクティビティを通して特別活動の目標を達成できていると感じていることが分かった。

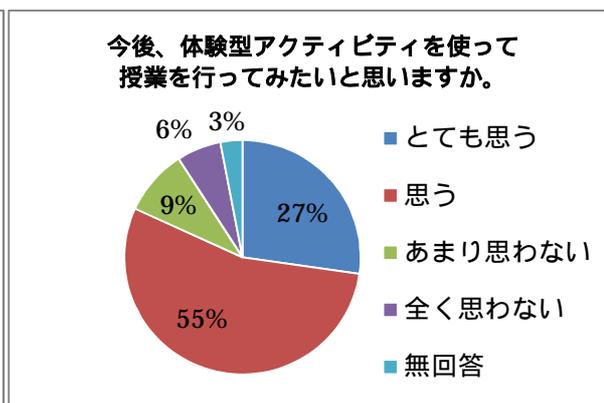


【図2 活動のねらいの達成度に関する回答結果】

また、「体験型アクティビティの授業の趣旨や効果を、本授業を通して実感できましたか。」【図3】の質問に「とても思う」「思う」と答えた割合が88%、「今後、体験型アクティビティを使って授業を行ってみたいと思いますか。」【図4】の質問に「とても思う」「思う」と答えた割合は82%だった。授業を参観した多くの教師が体験型アクティビティの有用性を実感し、自分の学校、学級でも取り入れたいと感じていることが分かった。



【図3 体験型アクティビティの趣旨や効果に関する回答結果】



【図4 体験型アクティビティの期待度に関する回答結果】

(5) 実践事例集の作成

実践事例集は、それぞれの「体験型アクティビティ」を活かした授業の学習指導案【資料1】と、実践事例【資料2】で構成している。

体験型アクティビティを特別活動に位置付け、学習指導案には評価規準として、『学級活動(1)「学級や学校の生活づくり」集団の一員としての思考・判断・実践』を明記した。

実践事例には、活動の様子をより具体的に伝えるために「主な活動の写真 主な活動の流れと内容 児童生徒の感想 授業者の感想」を明記した。これにより、授業がイメージし易く、より多くの教員に実践してもらえたと考えた。実践事例には、研究所員10名が2学期に実際に行った実践を掲載した。児童生徒の感想と授業者の感想【資料3】には、以下のような感想が挙げられた。

正方形をつくろう				
実施学年	高学年以上		高学年以上	
	他者から学ぶ方	自ら学ぶ方	自然から学ぶ方	社会から学ぶ方
日南市4つの学ぶ方	<ul style="list-style-type: none"> 全員が参加せざるを得ない4人1組で課題に取り組むことを通して、アイデアを共感的に理解する力をつける。 与えられたものだけでは解決できないときに、見方を変えて考えることに目を向ける力をつける。 仕事は一人ですというより、チームで取り組むことを理解する。 			
活動のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 学校や学校の生活の充実と向上に関わる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自発的に集団活動に取り組もうとしている。 			
評価規準	正方形の図形、方眼紙、はさみ、ワークシート、掲示資料			
準備物	学習指導要領			
時間	主な学習活動と内容	指導上の留意点	評価	
導入 10分	1 活動を行う上での約束事を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> アイデアがイメージできないときは、積極的に質問しよう。 アイデアを出し合うときは、反応をしよう。『ああ、なるほど』…納得 『いいね、すごいね』…称賛 『うん、うん、たしかに』…共感 『おお、すばらしい』…感動 仕事を分担し、グループみんなで関わって作業しよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動する上で気をつけることを提示し、成功させることだけに集中せず、話し合いや試行錯誤する態度を大切するように意識付けさせる。 		
	2 課題について理解する。 4枚の大きさの違う正方形から、4cm、9cmの正方形を探そう。 3 授業の流れについて理解し、学習の見通しをもつ。 【学習のめあて】 正方形をつくるために、グループでアイデアを出し合い、理解し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> 4枚の大きさの違う正方形を配り、大きさの違いをもとに、4cm、9cmの正方形を探そう。その際、大きさの違いだけではその面積になると言い切れないことを伝え、生徒が意欲的に1cmの正方形を使って理由を説明できるようにする。 活動の流れが視覚的に分かるようにし、児童がいつでも振り返ることができるようにする。 		
展開 30分	4 2cm、8cmであることを説明する。 【学習のめあて】 正方形をつくるために、グループでアイデアを出し合い、理解し合おう。	<ul style="list-style-type: none"> 残りの2枚の正方形がなぜ2cm、8cmなのか考えさせる。与えられた図形をそのままだけで組み合わせただけではつ 	自分の考えを伝えたり、判断を見つけた	

積み木タワー

小学校2年生で実施

積み木タワーは、自由キューブを使って、できるだけ高いタワーを作るアクティビティである。自立したタワーを作るためのアイデアをグループの友達と話し合い、協力して作る事が大切である。



導入
学習のめあてを確認した後、学級の児童から先ずはチーム名を決め、活動への意欲を高めた。

組み立て1回目
これまで1人で行ってきた積み上げ方を試す。このグループでは協力の仕方についても思案中だった。



話し合い1回目
他のチームで上手くいったことを全体で分かち合った。よいと思う意見は取り入れて次の組み立てに生かすことができた。



組み立て2回目～話し合い2回目～3回目
協力の仕方も変わってきた。チームのメンバーがそれぞれ役割を考えて活動していた。

【資料1：学習指導案】

【資料2：実践事例】

児童生徒の感想
<p>最初のアイデアでは紙タワーが立たなかったけど、他の班のアイデアを参考にしたら紙タワーが立ったので嬉しかったです。</p> <p>役割分担がうまくできたので、高いタワーを作ることができました。</p> <p>みんなのおかげで34個積み上げることができて、嬉しかったです。</p> <p>友達の発想力がすごくて、そのアイデアをみんなで参考にして作ることができました。</p>
授業者の感想
<p>活動のねらいや視点を明確にすることで、楽しいだけの活動にならず、児童生徒にねらいとする力を身に付けさせることができると感じた。</p> <p>グループでアイデアを出し合うことで、これまでとは違う考えや方法が生まれ、それらを共有することで考えを深めることができた。</p> <p>工夫点や改善点を多様な観点から出しており、児童生徒の着眼点の違いが面白かった。</p>

【資料3：児童生徒と授業者の感想】

児童生徒の感想や授業者の感想から、体験型アクティビティを活用する際には「事前に活動のねらいを明確にしておくこと」「活動中の児童生徒の様子を見ておき、次の展開を考えること」「授業のねらいに即した体験型アクティビティを活用すること」などが大切であることが考えられる。

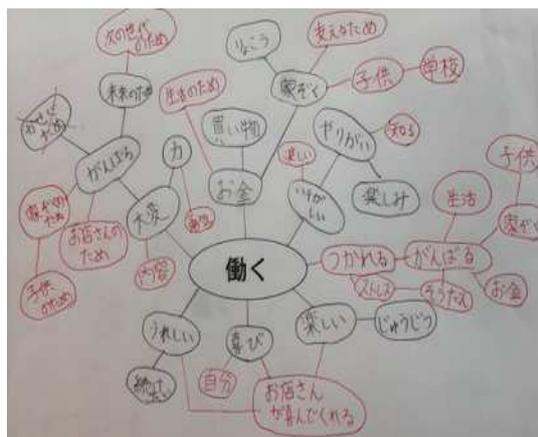
3 地域の人材や企業等との連携

(1) グッジョブフェスタ in にちなん

日南市教育委員会、日南商工会議所青年部、宮崎労働局ハローワーク、日南市教育研究所で「グッジョブフェスタ in にちなん実行委員会」を組織し、計画を練った。

当日は、まず、体験の目的を明確にすることと、事前と事後で参加者自身に意識の変容を自覚させることを意図して事前指導を行った。イメージマップ【資料4】を活用し、働くという言葉を基に連想する言葉をその周りに書かせ、事後指導においては赤で追加記入させた。

児童生徒は、事前指導後にそれぞれのグループに分かれ、一人当たり4事業所で体験学習を行った。体験学習【写真4】では、初めに事業所の方に仕事の内容等を約5分間話していただき、ワークシートにまとめた。その後、各事業所を体験する中で初めにいただいた話の内容の理解に結びつけた。児童生徒は、日南に数多くの事業所があることに驚いていた。そして話を聞いたり、体験をしたりすることによって仕事に対する考え方を学び、これからの生活へ結び付けるなど、意識の変容【資料5】が見られた。



【資料4：イメージマップ】



【写真4：活動の様子】

児童生徒の感想

仕事をするのが、どれだけいいことが分かった。人の役に立ちたい。
自分の将来の夢について考えることができた。
いろいろなことを学んで、もっと勉強が必要だと感じた。
いろいろな人が、いろいろな仕事を、いろいろな思いでやっているおかげで世界が助かっていると思う。
疑問をもつこと、一生懸命すること、1秒を大切にすることをこれから活かしたい。

【資料5：グッジョブフェスタ in にちなんを終えての児童生徒の感想】

(2) 人材バンクを活用した授業

ア 人材バンク協議会

(ア) 人材バンク協議会の目的

本協議会は、これまでの職業講話等の成果と課題を明確にし、児童生徒がふるさとについて考えを深めたり、キャリア発達を促したりするための授業の在り方はどうあればよいかを検討するために行った。

(イ) 人材バンク協議会の実際

8月29日(火)に地域の企業の方10名を本研究会に招き、協議会【写真5】を行った。これまでの職業講話等を振り返り、学校側からは、普段とは違う価値観に触れることがで

きるという成果や、「話す内容など事前の打合せが大切である」「講師を探すことが大変である」といった課題が挙げられた。また、「個人的につながっている先生からの依頼が多い」「児童生徒の質問力が低い」「発言に深まりがない」など日頃の教育活動での指導を充実させるべきという企業側の意見も出され、人材バンクを活用した授業を充実させるための方法についても協議を行った。



【写真5：協議会の様子】

イ 人材バンク登録票

【資料6】の登録票を作成し、人材バンクへの登録を依頼した。対象学年と講話の内容、連携した授業の内容などを記入できる形式にし、児童生徒の実態に合った授業づくりに向けて教師が選択し、授業との打合せを効率よく行うことができるようにした。

対象学年 講話内容等 ※ 対象学年（対座可能な学年）と話しただけの内容を記入してください。	【⑩・中 1】年対象	【小・④ 3】年対象
	【内容】 1 職業講話 2 キャリア選択論	【内容】 1 職業講話 2 キャリア選択論
講話等の時間 ※40分以内でお願いいたします。	5～40分	5～40分
準備物	スクリーン、プロジェクター	スクリーン、プロジェクター
その他の要望	保護者、先生方とは違う角度からの話になってしまいますので、あらかじめご了承ください。	

【資料6：人材バンク登録票】

ウ 人材バンクを活用した授業

人材バンク登録票を活用したことによって、「進路を決められない」「勉強にやる気が出ない」「人と関わることは大事なのか」といった生徒の実態を踏まえた地域人材を選定することができ、また、事前の打合せの時間も、効率化を図ることができた。授業における地域人材の講話は、生徒が日々悩んでいることの解決のためには「飛び込む力」や、「信頼の積み重ねが自分に返ってくること」が大切であることなどを話し【写真6】生徒からの感想【資料7】も意図したものが返ってきた。



【写真6：授業の様子】

生徒の感想
<p>学校生活においてもいろいろなことに挑戦していきたい。</p> <p>変化に対応することなど学校生活でも学んでいきたい。</p> <p>自分の悩みを、後ろから支えてもらった感じがした。</p> <p>今できることに真剣に取り組んでいきたい。</p> <p>物事を様々な角度から見ていきたい。</p> <p>人に助けられることも多いということを学んだ。友達を大切にしていきたい。</p> <p>最後には自分で決められる自信を身に付けたい。</p>

【資料7：人材バンクを活用した授業を終えての生徒の感想】

研究の成果

体験型アクティビティのねらいを基礎的・汎用的能力と関連付けて整理したことで、ねらいがより明確になった授業実践が行え、「基礎的・汎用的能力を身に付けた子」を育成する上で有効であった。

体験型アクティビティを特別活動に位置付け、学校行事と関連させた授業を行うことは、「身に付けた『4つの学ぶ力』を総合的に活かすことができる子」を育成する上で有効であった。

グッジョブフェスタにおける事前授業と事後指導を設定することは、日南市にある企業等から学んだことを児童生徒が客観的に振り返る機会となり、「ふるさとを誇りに思い、ふるさとについて考えを深めることができる子」を育成する上で有効であった。

人材バンク登録票を活用して授業の打合せを行うことは、授業のねらいを地域人材と共有して授業に臨むことができ、「適切な勤労観・職業観を備え、学ぶ意欲・働く意欲にあふれる子」を育成する上で有効であった。

研究の課題

特別活動の内容は、多岐にわたっている。体験型アクティビティをどのように教育課程に位置付けるのかを明確にする必要がある。

体験型アクティビティの授業を市内の学校に広げる方法を考える必要がある。

人材バンクをより充実させるために、今後も多くの企業に趣旨を伝え呼びかける必要がある。

【引用・参考文献】

- | | | |
|---|---------|---------------|
| ・『若年者の就職能力に関する実態調査』結果 | 平成16年1月 | 厚生労働省 |
| ・社会人基礎力に関する研究会-「中間とりまとめ」- | 平成18年1月 | 社会人基礎力に関する研究会 |
| ・キャリア教育・職業教育特別部会（第7回）配付資料 | 平成21年5月 | 文部科学省 |
| ・今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申） | 平成23年1月 | 中央教育審議会 |
| ・小学校キャリア教育の手引き（改訂版） | 平成25年5月 | 文部科学省 |
| ・宮崎県キャリア教育ガイドライン | 平成25年1月 | 宮崎県教育委員会 |
| ・日南市重点戦略プラン2015-2019 | 平成27年3月 | 日南市 |
| ・新時代を生き抜く『4つの学ぶ力』を育てる！！日南市教育ガイドライン(改訂版) | 平成28年3月 | 日南市教育委員会 |

【研究同人】

- 所長 黒木 康英（日南市教育委員会 教育長）
副所長 土持 光司（日南市教育委員会 学校教育担当監）
事務局 西岡 雅弘 松下 綾 西川 元（日南市教育委員会 指導主事）
研究員 三橋 正洋（榎原中学校） 佐藤 須三郎（榎原小学校） 黒木 勇樹（飫肥小学校）
植野 大郎（吾田小学校） 川崎 直幸（吾田東小学校） 前田 雅樹（吾田小学校）
丸目 祐貴（南郷小学校） 江上 史（渦上小学校） 笠 大輔（油津中学校）
本部 和史（吾田中学校） 有川 貴礼（東郷中学校） 泉 真紀（榎原中学校）
- 研究アドバイザー
竹内 元 准教授（宮崎大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻）